

北丹陸上競技協会主催等競技会
新型コロナウイルス感染症予防対策マニュアル

《2021年3月1日現在版》



北丹陸上競技協会
新型コロナウイルス感染症対策室

1. 共通事項

(1) はじめに

当協会では、感染防止に最大限の注意を払い、できる限り感染リスクを軽減させた競技会運営に務めるため、(公財)日本陸上競技連盟の「陸上競技活動再開のガイダンス」および「ロードレース再開についてのガイダンス」に沿って競技会を運営する。そのため、下記の資料に基づきこのマニュアルを作成した。

また、競技会主催者として、全ての人の連絡先を把握することで不特定多数ではない状態を作る必要があると考えるため、競技者・関係者は、個人情報取得・利用・提供に同意することにより、本大会に参加することができるものとする。

- ①【陸上競技活動再開のガイダンス】概要 (2020年6月11日)
- ②【第1版改訂】日常における活動再開について (2020年6月25日)
- ③【第3版】競技会開催について (2021年1月15日)
- ④【第1版改訂】競技会開催の基本情報と前提条件の確認 (提出用チェックリスト) (2021年1月15日)
- ⑤【大会前：提出用】体調管理表・症状チェック表 (2020年8月11日)
- ⑥【大会後：自己管理用】体調管理表・症状チェック表 (2020年6月11日)
- ⑦【第1版改訂】ロードレース再開についてのガイダンス (基本方針) (2020年8月11日)
- ⑧【第3版】ロードレース開催についてのガイダンス (チェックリスト) (2021年1月15日)

(2) 競技会開催にあたっての基本注意事項

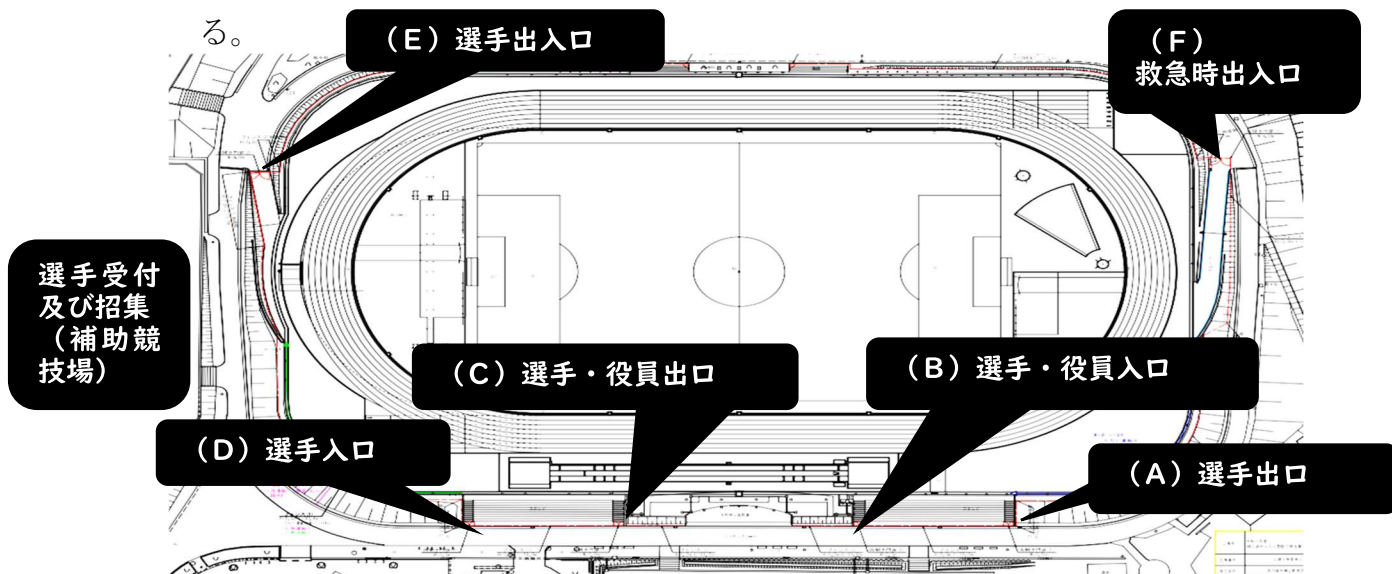
- ① 三密を回避 (密閉空間・密集場所・密接場面が生じる場所を徹底的に解消する)
- ② 感染症対策 (手を清潔に保つとともに、マスクを着用する)
※マスクの着用については、状況によって判断する。息苦しさを感じた場合はマスクを外し、水分補給や休憩をとるなど無理をしない。
- ③ 主催者として行うこと (主催者としての考え方、責任所在を含む)
 - 1) 開催までの事前準備…競技会開催 2週間前までに「④競技会開催の基本情報と前提条件の確認 (提出用チェックリスト)」を京都陸上

競技協会に提出する。また、予め感染症予防対策や感染者が発生した場合の行動計画を本マニュアルにとりまとめておくものとともに、競技会開催地自治体および医療機関の協力を得ること、及び三密の解消と感染者発生の場合に備え、全ての人との連絡先把握のため準備を行う。

- 2) 競技会に関わる全ての人に対する、競技会前後での検温データ等体調を把握するしくみを構築・運用する。
 - 3) 開催時の対応…多くの人々が頻りに触れる会場内の箇所を清掃・消毒し、環境を清潔に保つ。運動時を除きマスクの着用を義務とし、マスクをしていない人に対し注意を促す。
 - 4) 当分の間、無観客にて開催し、開閉会式も実施しない。
 - 5) 主催者は、競技会に関わる全ての人に対して傷害保険に加入する。
 - 6) 主催者は、競技会に関わるすべての人の感染に対するいかなる責任も負わない。
- ④ 競技会に関わる全ての人（競技者・関係者・役員・観客・メディアなど）がすべきこと
- 1) 三密を避けて行動することを徹底する。
 - 2) 競技会1週間前から2週間後までは日々の検温を実施し、体調管理を徹底する。
 - 3) 大会当日の受付にて、体調管理チェックシートの提出又は当協会指定アプリの利用確認後、競技場の入場に必要IDカードの交付を受けること。
 - 4) 競技会終了後、2週間以内に発熱などの症状があった場合には最寄りの保健所、診療所等に相談後、必ず大会主催者に報告する。
 - 5) 新型コロナウイルス接触確認アプリ等を積極的に活用する。
- ⑤ 新型コロナウイルス感染症対策室の設置
- 北丹陸上競技協会の各主催競技会における感染症予防対策や、感染者、濃厚接触者、感染疑い者が発生した際の意味決定及びその対応を行うため、新型コロナウイルス感染症対策室を設置する。その構成は、会長、理事長、医事・トレーナー部長、大会総務及び大会救護（保健師資格を有する審判員含む）とし、管内医療機関（医師）、京都府保健衛生機関とも連携する。なお、競技会開催中に発症者が特定・確認された場合は、競技会をその時点で中断・中止し、このマニュアルに基づき処置対応する。

(3) 競技会当日の流れ

- ① 無観客開催とする（応援の保護者等の来場はお断りします）。陸上競技場メインスタンド（競技場フェンス内）への入場は、競技者及びチーム関係者（監督、顧問、マネージャー）、競技役員、補助員及び式典関係者のみとし、入場時にIDカードの提示を求める。またチーム関係者は、所属が証明できるものを提示してもらう場合がある。
- ② IDカードは受付にて交付する。（※チーム・学校の場合は体調管理チェックシートの提出は、代表者がまとめて提出してもよい）
- ③ 入退場口は、メインスタンド東側（A、B）と西側（C、D）、競技場西側スロープ入口ゲート（E）及び競技場東側スロープ入口ゲート（F）の6か所とし、それ以外の出入口は使用しない。ただし、（F）は救急対応時のみの入退場口として使用する。（B）及び（C）は選手と役員の通路を別としコーンで区切り、（E）の入退口も、入場と退場それぞれコーンで区切る。入場口では、消毒液配置と忘れた人へのマスク配付を行う。受付担当者はマスクのほか、フェイスシールドを着用する。



- ④ メインスタンドはIDカード所有者に開放するが、周囲とできれば2m（最低1m）の距離をとること。大きな声での応援、集団での応援は禁止する。またメインスタンドにテント、のぼり、横断幕の設置を禁止する。
- ⑤ 招集は補助グラウンド倉庫前付近で第1招集（スタートリストに○をつける）のあと現地にて2次招集をうける。トラック競技の場合は第1招集の際、各自で腰ナンバーを取る。
- ⑥ 表彰1位のみメインスタンド下にて行う。2位3位は各自が大会本部

に取りに来ること。

- ⑦ 記録発表はWEB上で行う。プログラム及びスタンド各所に掲示するQRコードよりURLを取得できる。
- ⑧ 競技者は自己の競技終了後は速やかに退場する。
- ⑨ 競技者は、マスク、タオル、衣類入れのビニール袋の持参を必須とする。
- ⑩ 常に、手指消毒、手洗い、洗顔など励行すること。熱中症にも十分注意し、水分の持参、日陰での適度な休憩を心がけること。

<帰宅後の注意>

- ① 2週間以内は検温を実施し、発熱や体調に異常があれば下記に連絡すること
新型コロナ医療相談センター 075-414-5487
北丹陸上競技協会 高橋尚義 090-4497-5422

<競技者・競技役員への周知事項>

- ① 体調不良の場合は参加を辞退してください。
- ② 当日受付時には、体調管理チェックシートを提出又は当協会指定アプリの利用確認を行います。提出しない又は当協会指定アプリの利用確認ができない場合は、競技場内への入場はできません。また競技者は出場を認めません。ただし、検温を受検し37度未満であれば、入場・出場を認める場合があります。
- ③ 各個人でマスクとハンドタオルを、また競技者は、競技出場時に脱衣した衣類入れポリ袋を持参してください。
- ④ 会場ではこまめな手洗い、手指消毒、運動後の洗顔を励行してください。
- ⑤ 会場では他の参加者や、スタッフとの距離を確保してください。
- ⑥ 大きな声での会話、応援はしないでください。
- ⑦ 招集、記録発表は、当日の指示やプログラム、掲示、WEBなどで確認してください。
- ⑧ 会場への来場は、競技時間に合わせるなど、時差来場にご協力ください。
- ⑨ 保護者などの応援来場はご遠慮ください。また競技終了後は速やかに退場ください。
- ⑩ 大会終了後2週間以内に新型コロナウイルス感染症を発症した場合は速やかに濃厚接触者の有無などを報告してください。

＜競技外の対策＞

- ① 写真判定室などは喚起のため常時窓や出入口を開放しておく。
- ② 大声での応援は禁止する。スタンドにおいても適度な距離とマスク着用を呼び掛ける。
- ③ 定期的（1時間ごと）にトイレやドアノブなどの消毒をする。機械器具等の供用を避け、共用する場合は手指、機器を消毒する
- ④ メインスタンド下大会本部前は、役員以外の通行を禁止する。
- ⑤ ごみは各自で持ち帰るよう呼び掛ける
- ⑥ 事前事後のミーティングや反省会は自粛するよう要請する。
- ⑦ 競技終了後は速やかに退場、帰宅し、手洗い、うがい、洗顔、消毒するよう呼びかける

（4）感染者、濃厚接触者、感染疑い者が発生した際の意味決定及びその対策

① 司令塔としての感染症対策室

競技会開催中に発症者が特定・確認された場合は、新型コロナウイルス感染症対策室により、その時点で競技会の中断・中止の意思決定を行うとともに、行政及び日本陸連、京都陸協との窓口として機能し、かつ、このマニュアルに基づき感染症対策を処置対応する司令塔となる。

② 感染者への対応

大会開催日の3週間前の時点、もしくはそれ以降にPCR検査もしくは抗原検査で陽性反応があった場合、当該選手、チームは参加を辞退するまたは、主催者による出場権利の取り消しを行う。

③ 濃厚接触者への対応

保健所から濃厚接触者と認められた場合、14日間にわたり健康状態を観察する期間を経過し、症状が出ていない選手であれば、出場を認める。（「新型コロナウイルス感染症対策の基本的対処方針」厚生労働省2020年5月25日）

④ 感染疑い者への対応

大会開催3週間前の時点、もしくはそれ以降に感染疑い症状が発症していた場合、インフルエンザ等の新型コロナウイルス以外の感染症のリスクもあるため、原則当該選手は参加辞退を促す、または、主催者による出場権利の取り消しを行う。

但し、以下の両方の条件を満たしている場合、大会への出場を認める場合がある。

1) 感染疑い症状の発症後に少なくとも8日が経過している。

（8日が経過している：発症日を0日として8日間のこと）

- 2) 薬剤を服用していない状態で、解熱後および症状消失後に少なくとも3日が経過している(3日が経過している：解熱日・症状消失日を0日として3日間のこと)

「発熱や風邪症状を認める者の職場復帰の目安」

一般社団法人日本渡航医学会・公益社団法人日本産業衛生学会

〈感染疑い症状とは〉

▼息苦しさ(呼吸困難)、強いだるさ(倦怠感)、高熱等の強い症状のいずれかがある場合

▼重症化しやすい方(高齢者、糖尿病・心不全・呼吸器疾患(COPD等)等基礎疾患がある方透析を受けている方、免疫抑制剤や抗がん剤等を用いている方)で、発熱や咳などの比較的軽い風邪の症状がある場合

▼上記以外の方で、「発熱や咳など比較的軽い風邪の症状」が続く場合(症状が4日以上続く場合は必ず、「強い症状」と思う場合にはすぐに相談を。解熱剤などを飲み続けなければならない方も同様)「新型コロナウイルス感染症についての相談・受診の目安」厚生労働省(2020年5月11日)

⑤ 競技実施中に、感染者等が発生した場合の対応

- 1) 競技会を中止するとともに、帰国者・接触者相談センターに連絡し、感染者等の状況を伝え、その後は帰国者・接触者相談センターの指示に従う。
- 2) 感染者等の名簿を確認し提出に備えるとともに、他の競技会参加者名簿の情報提供はセンターの指示に従う。

⑥ 競技会当日受付での対応

- 1) 競技会当日受付で、体調管理チェックシートを提出又は当協会指定アプリの利用確認を受けた際、37度以上または平素の体温より高熱な状態が少なくとも3日続いている場合、検温を行い、結果37度以上であったときは、参加(出席)を辞退してもらう(IDカードは交付しない)
- 2) 体調管理チェックシート又は当協会指定アプリの利用による検温等体調データは、万が一感染が発生した場合に備え、個人情報の取扱いに十分注意しながら、感染症対策室において1月間保存する。(保管期限終了後は適正速やかに廃棄し、廃棄した証を保管する)

【大会前：提出用】体調管理チェックシート



【大会前／提出用】新型コロナウイルス感染症についての体調管理チェックシート（第2版8月11日改訂）

本チェックシートは各種大会において新型コロナウイルス感染症の拡大を防止するため、参加者の健康状態を確認することを目的としています。本チェックシートに記入いただいた個人情報については、厳正なる管理のもとに保管し、健康状態の把握、未場可否の判断および必要なご連絡のためにのみ利用します。また、個人情報保護法等の法令において認められる場合を除きご本人の同意を得ずに第三者に提供いたしません。但し、大会会場にて感染症患者またはその疑いのある方が発見された場合に必要範囲で保健所等に提供することがあります。 個人情報の取得・利用・提供に同意する

※大会1週間前から記入し、大会当日、主催者の指示に従い指定の場所に提出すること

※該当しない場合は✓を入れ、該当する場合は○を記入すること（体温0.1℃単位の数字を記入）

No.	チェックリスト	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/
1	のどの痛みがある													
2	咳（せき）が出る													
3	痰（たん）がでたり、からんだりする													
4	鼻水（はなみず）、鼻づまりがある ※アレルギーを除く													
5	頭が痛い													
6	体のだるさなどがある													
7	発熱の症状がある													
8	息苦しさがある													
9	味覚異常(味がしない)													
10	嗅覚異常(匂いがしない)													
11	体温	℃	℃	℃	℃	℃	℃	℃	℃	℃	℃	℃	℃	℃
12	薬剤の服用(解熱剤を含む上記症状を緩和させる薬剤)													

氏名 _____

所属（学校名など） _____

連絡先（電話番号） _____

保護者氏名 _____

【大会後：自己管理用】体調管理チェックシート



【大会後／個人管理用】新型コロナウイルス感染症についての体調管理チェックシート

※大会終了後2週間は健康チェックをすること。

※該当しない場合は✓を入れ、該当する場合は○を記入すること（体温0.1℃単位の数字を記入）

No.	チェックリスト	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/
1	のどの痛みがある													
2	咳（せき）が出る													
3	痰（たん）がでたり、からんだりする													
4	鼻水、鼻づまりがある ※アレルギーを除く													
5	頭が痛い													
6	体のだるさなどがある													
7	発熱の症状がある													
8	息苦しさがある													
9	味覚異常(味がしない)													
10	嗅覚異常(匂いがしない)													
11	体温	℃	℃	℃	℃	℃	℃	℃	℃	℃	℃	℃	℃	℃

※症状が4日以上続く場合は必ず最寄りの保健所、診療所等に報告してください。症状には個人差がありますので、強い症状と思う場合にはすぐに報告してください。

※保健所、診療所等に相談後、必ず大会主催者に報告してください。

(5) ロードレース開催

① 前提条件

ロードレース開催地の自治体から大会開催が認められ、コースを通過する自治体に対しても大会開催の周知がされていることを開催の前提条件とする。

② 参加ランナー、チーム関係者、競技役員、大会役員、ボランティアなどへの感染症対策に対する各種注意事項

- ・必要に応じて大会要項・競技注意事項に記載する。
- ・大会主催者の感染予防対策について理解を促す。

③ ロードレース当日

- 1) スタート会場への入場を制限するため、入口を設け、サーモグラフィなどを設置し、大会主催者が参加ランナーや競技運営関係者などに感染疑い者がいないか確認を行う。
- 2) 感染疑い者を発見した場合は各大会の新型コロナウイルス対策室を中心に事前に定めた感染症予防対策マニュアルに基づき、慎重に対応する。

④ 会場計画

- 1) 三密を回避、ソーシャルディスタンスを確保した会場計画・ゾーニングを行う。
- 2) 参加ランナーと競技運営関係者の動線をできる限り分ける。
- 3) 密閉空間（換気の悪い密閉空間である）の対策
バス、諸室、更衣室などの換気を徹底する。
- 4) 密集場所（多くの人々が密集している）の対策
バス、諸室、更衣室、招集所、スタート待機所、給水給食所、トイレなどにおいて、ソーシャルディスタンスを確保する。会場内に喫煙所を設置しない。
- 5) 密接場面（互いに手を伸ばしたら届く距離での会話や発声が行われる）の対策
バス、諸室、スタート待機所、などにおいて、ソーシャルディスタンスを確保できる人数に制限する。
バス輸送手段の運営は、各業界や事業者が定めるガイドラインに準拠した運営を行う。

⑤ 競技運営

- 1) ソーシャルディスタンスを確保した競技運営
定員の設定／競技役員、ボランティアの配置計画／参加ランナーの動線設計

- 2) 三密を回避した競技運営（特に密集・密接）
ウェーブスタートの推奨／15分以上同じ場所に滞留させない
※（厚接触と判断する目安「1m以内 15分以上の接触」に基づく：
国立感染症研究所：積極的疫学調査実施要領における濃厚接触者の
定義変更などに関する Q&A（2020年4月22日））
- 3) 接触を極力回避した給水所の運営
使い捨て手袋などの着用／手渡しでの提供は行わない／余裕を持った
テーブル配置など
- 4) 接触を極力回避した給食（一般ランナー）
提供物は個包装のものとする／必要最低限の提供／個々で補給のゼリ
ーなどの持ち込みを推奨
- 5) 回し飲みは認めない。
- 6) 給水所にスポンジは使用しない。
- 7) 嘔吐物は個人防護具を着用した者が対応し、消毒を行う。
アルコール 70%程度のもの、又は次亜塩素酸ナトリウム 0.05%溶液
- 8) フィニッシュ後にマスクまたは代用品を提供し着用、手指消毒を
促す。
- 9) 完走メダルや賞状などの記念品は当日渡さず、後日発送などの接触を
極力回避した対応を行う。
- 10) 記録証やリザルトなどは印刷せず極力オンラインで発行する。
- 11) 取材や表彰式を実施する場合は 3 密を回避した形で実施する。
人数制限／ソーシャルディスタンスの確保／屋外

⑥ 医療対応

- 1) 医師／保健師／看護師で構成された医療チームを医務室・救護室に常
駐させ、常に相談ができる体制を整える。
- 2) 感染疑いがある者への対応は医師／保健師／看護師へ相談、感染症予防
対策マニュアルに沿って対応する。
3) 個人防護具を準備する。（フェイスシールド、ゴーグル、使い捨て
手袋、マスク、白衣など）
- 4) ロードレース中・フィニッシュ後に倒れ込んだランナーのケアは防護体
制（※）を整えたスタッフで対応する。
※防護体制：マスク、フェイスシールド、ゴーグル、使い捨て手袋など
ゴーグル（サングラス）はその都度、アルコール消毒をする。
- 5) 発熱者が出た場合の隔離室または隔離できるテントを確保する。（部屋
が確保できない場合は、飛沫感染防止可能なカーテン、パーテーション
などで仕切ったコーナーを用意）

- ⑦トイレ（便座、ドアノブ、水洗トイレのレバーなどを清潔に保つ）
- 1) 感染症防止の張り紙を貼付するなどの工夫
 - 2) 常設トイレ：洋式トイレではふたをした後流すことの徹底。石鹼または消毒液の常備／ハンドドライヤーの使用中止
 - 3) 仮設トイレ：消毒液の設置
- ⑧ゴミの廃棄
- 1) 参加ランナー各自で管理するなど、極力ゴミが出ないように運営を検討する。競技施設内はゴミ箱を撤去し、ゴミは各自持ち帰るように事前に周知し、かつアナウンスする。
 - 2) 主催者はマスクなどのウイルスが付着している可能性のあるゴミを、使い捨て手袋、トングなどを使用しビニール袋に入れて密閉して縛り廃棄をする。
 - 3) 飲み残しなどは公道などに流すのではなく、主催者は適切に処理する。
 - 4) 主催者は参加ランナーに衣服などは脱ぎ捨てないよう周知し、且つアナウンスする。脱ぎ捨てられた衣服などは直接触れず使い捨て手袋の着用、トングなどを用いて回収し原則廃棄する。
- ⑨沿道の応援
- 1) 地元住民含め沿道での応援の自粛要請
 - 2) 沿道の中でも特に混雑が予想されるエリアの対策
応援自粛・ソーシャルディスタンス確保、ポスター掲示、スタッフによる滞留禁止の呼びかけなど。
 - 3) 沿道から声援を送らない。ハイタッチ、私設エイドの禁止
 - 4) 新型コロナウイルス接触確認アプリなどの積極活用
- ⑩情報発信
- 1) 情報管理
 - ア 感染者、濃厚接触者、感染疑い者が発生した場合、地元行政及び保健当局と協議の上、情報発信の有無、情報発信の方法について協議をする。
 - イ 公表を行う場合、公表内容を含め日本陸連に連絡をする。
 - ウ 感染者が発生した旨を公表する場合は、積極的疫学調査により濃厚接触者が特定できない場合など、不特定多数の人に知らせる必要がある場合とする。
 - エ プライバシー保護に努め個人名は公表しない。
 - オ 感染者本人が個人名の公表を求めた場合、匿名での公表であっても社会的責任を果たすことができる旨を伝える。

2) 病歴管理

「病歴」は「要配慮個人情報」という個人情報のなかでも極めてセンシティブな、プライバシーがより保護されるべき情報であり、必ず個人情報取得の同意、情報の管理者、保管方法、廃棄方法を明確にする。

⑪大会終了後の報告事項

1) 大会主催者（公認大会）は大会終了後1ヶ月以内に以下の事項を日本陸連(info@jaaf-runlink.jp)にメールにて提出する。

- ア 感染症予防対策マニュアル
- イ 参加した医療関係者数（医師／保健師／看護師）
- ウ 参加者数、競技役員数
- エ 健康状態の管理状況（ロードレース1週間前、当日、競技会終了後2週間）
- オ 感染者発生状況（ロードレース1週間前、当日、競技会終了後2週間）

2. 競技役員用（準備行為含む）

（1）主催者ができる感染予防対策概要

- ① 競技会開催地および医療機関・保健衛生部局の協力を得る
 - 1) 対応可能な医療機関（北部医療センター）
 - 2) 丹後保健所
- ② 三密を解消する工夫を徹底する。
- ③ 多くの人が頻繁に触れる箇所を清掃・除菌し、環境を清潔に保つ。
- ④ すべての関係者に競技会開催地の新型コロナウイルス感染症に関する状況（ガイドライン）を伝える
- ⑤ 新型コロナウイルス接触確認アプリ等を積極的に活用するようすべての関係者に呼びかける。
- ⑥ 関係者すべての人の了解を得てその連絡先の把握に努め、不特定多数でない状態で、競技会を開催する

（2）競技役員・補助員における感染予防対策

- ① 会場入り前（自宅）

大会1週間前から当日、及び大会後2週間分の検温及び健康状況調査表（別紙）の記入又は当協会指定アプリの利用による検温等体調データを入力する。
- ② 会場入りから役員受付
 - ・会場入りの際、集団での入場を避ける。
 - ・「マーシャル」及び「役員係」はマスク及びフェイスシールドを着用する。
 - ・当日受付時には、体調管理チェックシートを提出（提出ない場合は競技場内への入場は不可。ただし、検温を受検し37度未満であれば入場を認める場合がある）又は当協会指定アプリの利用確認→IDカード受取→消毒→定められた入場口から入場する。
 - ・受付にて不確かな体調者がある場合は、その場で検温し、状況により参加を許可しない。
 - ・役員受付の際、必要のない会話は控える。また、混みあっている場合は、ソーシャルディスタンス（2m）を保って待つようにする。
- ③ 役員及び補助員打ち合わせ

競技役員全体打ち合わせは行わず、主任等のみで打ち合わせを行う。全体で必要な打ち合わせ事項（確認事項）を、各主任は紙面で、各部署で現地などでの打ち合わせ時に配付する。緊急を要する打ち合わせ（確

認) 事項は、できるだけ放送で行う。または、総務(総務員)か主任を通じて各部署に連絡をする。

④ 会場準備から片づけまで

- ・マスクを着用して、準備や片付けを行う。
- ・機器、備品、用器具を触る前に手指消毒をする
- ・用器具設置後は、役員も選手も直前(事前)に手指消毒をした人のみ触れても良い。

※該当する部署の用器具について、該当部署に関係のない役員や補助員、選手はできるだけ触れないようにする

- ・全競技終了後、該当部署のすべての用器具の消毒を行う。また、速やかに手洗い、うがい、洗顔を行う

⑤ 機器、備品、用器具の管理

- ・筆記用具(ペン類、鉛筆、消しゴム)について、消毒が難しいため役員各自が持参する。但し、1次招集場については、選手又は代理人が、選手自身の氏名を指差し、競技者係員が○印を記入する。
- ・パソコン、ピストル、風向機器、トランシーバー、手旗、マイク、拡声器などの共用をできるだけ避ける。共用する場合は、必ず前後に手指、機器を消毒する。
- ・写真判定室について、三密を避け、窓を開ける。判定員及びグリップ担当(機器を操作する人)が交代をする時は、機器の消毒及び、使用前後の手洗いをする。
- ・全競技終了後、トラック競技及びフィールド競技で使ったすべての機器、備品、用器具について、消毒を行う

⑥ 審判任務

- ・三密を避け、マスクを着用して任務にあたる
- ・休憩時には、手洗い・消毒・うがい・洗顔を実施する。
- ・選手を一か所に留める時間をできるだけ短くする。
- ・集合回数を減らす。
- ・一次招集後、選手各自により現地に移動する。担当審判員は現地にて二次コールを行う
- ・検温担当、役員及び選手への消毒担当、IDカード発行担当のマーシャルについては、マスク、フェイスシールド及びビニール手袋を着用して任務にあたる。
- ・近距離での大声は禁止する。但し、任務内容によっては、長さ、高さ、ビブスの番号、ペグ番号の伝達があるので、周りに配慮しながら伝達をする。(マイクや拡声器を使うことが望ましい。)

- ・呼び出しなど競技者との距離は保っているが近い距離で呼び出す等、指示を出す任務をあたる場合は、マスクと共にフェイスシールドも着用する。
 - ・写真判定室では、窓を開け、会話は最小限に控え、ソーシャルディスタンスを保って、任務にあたる。
 - ・競技中とウォーミングアップ時はマスクをしなくてもよいが、待機中はマスクを着用するよう指導する。
 - ・競技中にはツバやタンを吐かないように競技開始前に注意する。
 - ・給水する場合は、紙コップにより行い、手渡ししない。
 - ・競技終了後は速やかに手洗い、うがい、洗顔するよう促す。
- ⑦ 会場管理（マーシャル担当業務）
- ・入場口と退場口を分ける。
 - ・定期的（できれば1時間ごと）によく利用する場所やよく触れる場所（トイレやドアノブ、手すり、更衣室など）の消毒を行う。
- ⑧ 結果の報告
- ・会場に掲示板等は設置しない。（三密回避のため）
 - ・結果の報告について、QRコード（インターネットアドレス）から携帯電話、スマートフォン、タブレット等でアクセスして確認できるようにする。QRコードについては、プログラム及び会場内のいくつかのポイントに張り出しておく。
- ⑨ アナウンス
- ・通常のアナウンスでよいが、何度も普段と様式が違う競技会であることを周知するため、ソーシャルディスタンスやマスク着用、大声での声援の禁止、手洗い・うがいについて、何度も緊張感を持って伝える。
- ⑩ 役員の飲食について
- ・共用を防ぐため、給水機や紙コップなどの設置及び準備はしない。
 - ・役員は各自、飲料を持参する。主催者は役員の健康管理（熱中症等予防）のため飲料を準備する場合は、ペットボトルに入った飲料を配付する
 - ・昼食を主催者が準備する場合、弁当など個別に分けられた食事を準備する。また、できるだけ他部署との接触を避け、ソーシャルディスタンス（2m）を保って、飲食をする。
 - ・弁当がらは弁当発注先に引き取らせる。ペットボトル、その他のゴミについては、各自持ち帰る。
- ⑪ 会場を出て帰宅

- ・帰宅の際、商業施設等に立ち寄らず自宅に帰宅する。
 - ・帰宅後、手洗い、うがい、洗顔、消毒（できれば入浴まで）をする。
 - ・競技会后、2週間の体調管理・検温をする。発熱等、症状が4日以上続く場合は必ず最寄りの開催自治体の保健衛生部局（保健所・新型コロナ医療相談センター）に報告するとともに、大会主催者に報告する。
- ⑫ 競技会には救護を配置
- ・救護には、保健師資格を有する審判員を少なくとも1人配置する
 - ・競技中・フィニッシュ後に倒れこんだ競技者のケアのため、救護には防護体制（マスク、フェイスシールド、使捨て手袋、ビニールカップ、アルコール消毒液、ペーパータオルなど）を配備する。

3. 競技者用

(1) 競技者ができる感染予防対策概要

- ① 三密を避けることを徹底する
- ② 個人でできる感染症対策（マスク着用・手洗い・うがい・咳エチケット・体調管理など）を徹底する
- ③ 大会1週間前から当日、及び大会後2週間分の検温及び健康状況調査表（別紙）の記入又は当協会指定アプリの利用による検温等体調データを入力する。また発熱などの症状があった場合は主催者に連絡する。

(2) 競技者における感染予防対策

- ① 来場方法
 - ・マスクとハンドタオルを持参する。
 - ・競技時刻に合わせて、来場する。
- ② 会場入り
 - ・当日受付時には、体調管理チェックシートを提出（提出ない場合は競技場内への入場は不可。ただし、検温を受検し37度未満であれば入場を認める場合がある）又は当協会指定アプリの利用確認→IDカード受取→消毒→定められた入場口から入場する。
（※チーム・学校の場合は代表者がまとめて提出してもよい）
 - ・受付にて不確かな体調者がある場合は、その場で検温し、状況により参加を許可しない。
 - ・再入場の際は、定められた入場口でIDカードを提示する。
- ③ ウォーミングアップ
 - ・ウォーミングアップは、集団で行わず個別で行う。
 - ・リレーのウォーミングアップについては、会話は避け、最低限に留める。また、バトンの使用前後は、必ず手洗い・手指消毒の徹底をする。また、バトンパスを伴った練習をした場合は、手洗いだけでなく、洗顔も行う。
- ④ 競技
 - 1)トラック種目
 - ・受付時に、トラック競技は、シール式の腰ゼッケンを持っていき（リレーは最終走者のみ）、使い切りとする。処分は、選手が各自行う。
 - ・一次招集後、選手各自で現地に移動し、二次コールを受ける
 - ・競技終了後は、速やかに退場をする。
 - ・呼吸が整い次第、マスクの着用をする。

2) フィールド種目

- ・ 1次招集後、手洗いを必ずして現地に集合する。
- ・ 決められた時間、公式練習を行う。
- ・ 「やり」および棒高跳びの「ポール」について、できる限り、各自又は自チーム所有の物の使用とするが、やむを得ない場合（所有物がなく、競技場内の物を使用するなど）は、選手自らが試技の前後に手指消毒を行う。滑り止めは共用しない。
- ・ ラウンド間については、できるだけ会話を避け、ソーシャルディスタンスを保ち、呼吸が整い次第、マスクを着用する。
- ・ 競技終了後は、速やかに退場をする

⑤ 更衣したもの

- ・ その場に置いたり、他人のものと混じったりしないようにする。各自、袋を準備し、袋の中に更衣したものを入れる。忘れた場合のため、大会本部では袋を準備しておく。
- ・ 更衣したものの管理については、自己管理とする。

⑥ 競技終了後（表彰終了後）

- ・ 速やかに退場、帰宅する。帰宅の際、商業施設等に立ち寄らず自宅に帰宅する。
- ・ 帰宅後、手洗い、うがい、洗顔、消毒（できれば入浴まで）をする。
- ・ 競技会後、2週間の体調管理・検温をお願いします。発熱等、症状が4日以上続く場合は必ず最寄りの開催自治体の衛生部局に報告し、大会主催者に報告してください。

4. 応援者(送迎者)、チーム関係者用

(1) 応援者(送迎者)、チーム関係者ができる感染予防対策概要

- ① 三密を避けることを徹底する
ソーシャルディスタンスとしてできるだけ2m最低1mを目安に間隔を空ける工夫を行う。
- ② 個人でできる感染症対策(マスク着用・手洗い・うがい・咳エチケット・体調管理など)を徹底する。
- ③ 大会1週間前から当日、及び大会後2週間分の体調チェックを実施、又は当協会指定アプリの利用による検温等体調データを入力する。発熱などの症状があった場合は主催者に連絡する。

(2) 応援者及び送迎者における感染予防対策

- ① 応援者
保護者などの応援来場はご遠慮ください。
- ② 送迎者
集団での利用を避け、時差来場に協力をお願いします。

(3) チーム関係者(監督及び顧問、コーチ、マネージャー)における感染予防対策

- ① 入場
 - ・当日受付時には、体調管理チェックシートを提出(提出ない場合は競技場内への入場は不可。ただし、検温を受検し37度未満であれば入場を認める場合がある)又は当協会指定アプリの利用確認→IDカード受取→消毒→定められた入場口から入場する。
 - ・受付にて不確かな体調者がある場合は、その場で検温し、状況により参加を許可しない。
 - ・再入場の際は、IDカードを示して入場をする。
 - ・チーム関係者は、所属が証明できるものを提示していただくことがあります。
- ② 競技会中
 - ・手洗い・うがい・洗顔を行う。
 - ・声を出しての応援、集団での応援を行わない
 - ・混雑回避のため、競技者に付き添う者のウォームアップ場への立ち入りを最小限にする。
 - ・ウォームアップ場の観戦を禁止する。
- ③ 競技会終了後

- ・速やかに退場、帰宅する。帰宅の際、商業施設等に立ち寄らず自宅に帰宅する。
- ・帰宅後、手洗い、うがい、洗顔、消毒（できれば入浴まで）をする。
- ・競技会后、2週間の体調管理・検温をする。発熱等、症状が4日以上続く場合は必ず最寄りの開催自治体の保健衛生部局に報告するとともに、大会主催者に報告をお願いします。

5. メディアの取材要領

(1) 取材の事前申請

あらかじめ大会事務局へ取材申し出を行う。

(2) メディアの履行義務事項

- ・開催1週間前の体調管理・検温の義務と体調管理チェックシートの提出又は当協会指定アプリの利用による検温等体調データを入力する。
- ・終了後2週間の体調管理・検温を行う。
- ・取材時はマスクを着用する。
- ・競技場内では、手洗いや咳エチケットなどの実施を心がける。
- ・取材人数、取材方法、取材エリアは大会本部に確認し、遵守すること。

(3) 入場

- ・当日受付時には、体調管理チェックシートを提出（提出ない場合は競技場内への入場は不可。ただし、検温を受検し37度未満であれば入場を認める場合がある）又は当協会指定アプリの利用確認→IDカード受取→消毒→定められた入場口から入場すること。
- ・受付にて不確かな体調者がある場合は、その場で検温し、状況により、許可されない場合があることを了承すること。
- ・再入場の際は、IDカードを示して入場をすること。